



## モビリティ グループの設定

---

この章ではモビリティ グループについて説明し、WCS でそれらを設定する方法を説明します。この章の内容は、次のとおりです。

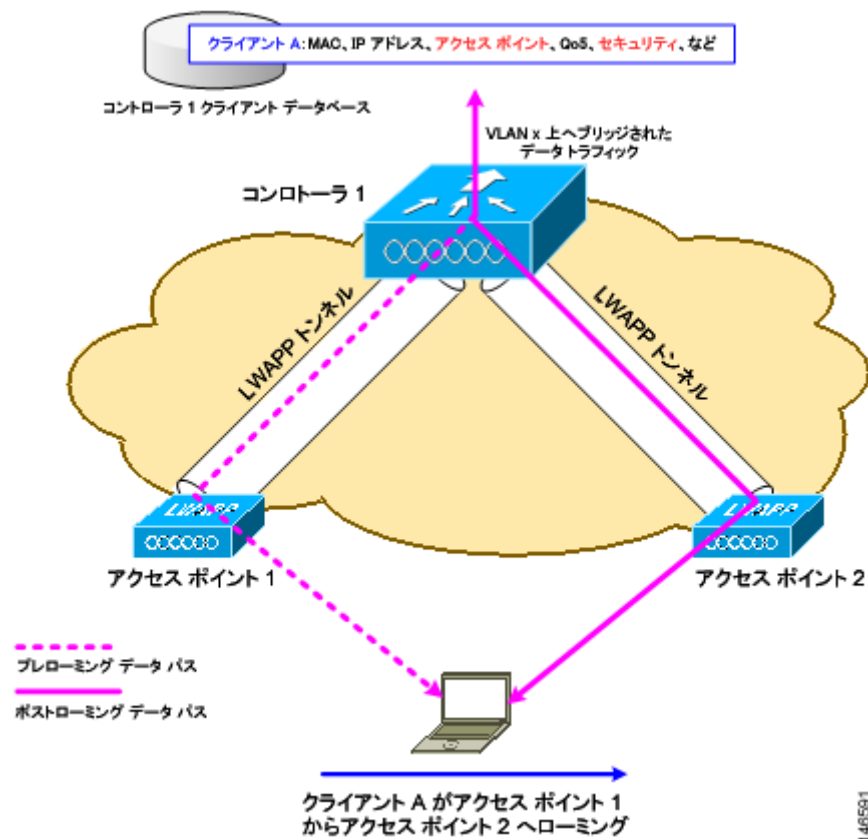
- [モビリティ の概要 \(P. 8-2\)](#)
- [モビリティ グループの設定 \(P. 8-7\)](#)
- [モビリティ アンカー \(P. 8-10\)](#)
- [設定グループの作成 \(P. 8-13\)](#)

## モビリティの概要

モビリティ（またはローミング）は、アソシエーションをあるアクセスポイントから別のアクセスポイントまでスムーズに、安全に、可能な限り少ない遅延で維持するための、無線 LAN クライアントの機能です。この項では、コントローラが無線ネットワーク内にあるときの、モビリティの動作の方法について説明します。

無線クライアントがアクセスポイントにアソシエートして認証を実行するときは、アクセスポイントのコントローラは、クライアントデータベースにそのクライアントのためのエントリを配置します。このエントリには、クライアントの MAC および IP アドレス、セキュリティ コンテキストおよびアソシエーション、QoS（Quality of Service）コンテキスト、WLAN、およびアソシエートされたアクセスポイントが含まれます。コントローラはこの情報を使用してフレームを転送し、無線クライアントとの間のトラフィックを管理します。図 8-1 は、あるアクセスポイントから別のアクセスポイントへローミングしている無線クライアントを示しており、両方のアクセスポイントが同一コントローラに接続されている場合を示しています。

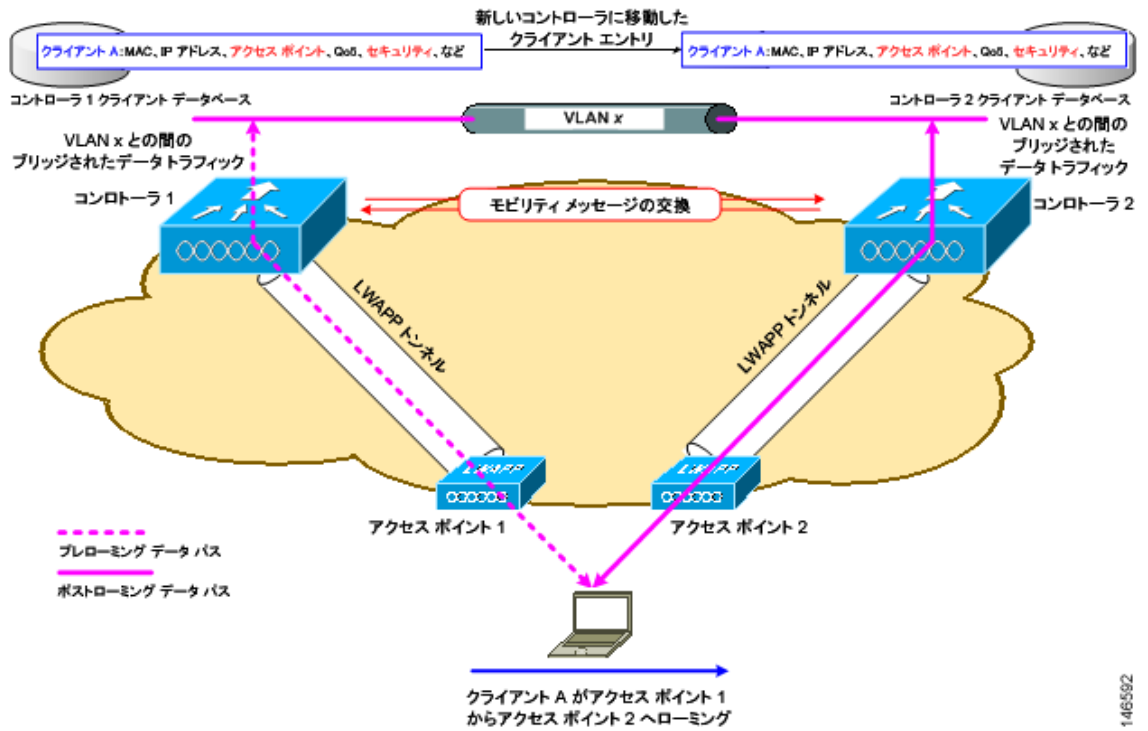
図 8-1 コントローラ内ローミング



無線クライアントがそのアソシエーションをあるアクセスポイントから別のアクセスポイントへ移動するときは、コントローラは新しくアソシエートされるアクセスポイントでクライアントデータベースをアップデートするだけです。必要に応じて、新しいセキュリティ コンテキストおよびアソシエーションも確立されます。

ただし、あるコントローラに接続されたアクセスポイントから、別のコントローラに接続されたアクセスポイントへクライアントがローミングするときは、プロセスはさらに複雑になります。また、プロセスは、コントローラが同一サブネット上で動作しているかどうかによって変わります。図 8-2 は、コントローラの無線 LAN インターフェイスが同じ IP サブネット上にあるときに起こるコントローラ間ローミングを示しています。

図 8-2 コントローラ間ローミング



クライアントが新しいコントローラに接続されたアクセスポイントにアソシエートするときは、新しいコントローラはモビリティメッセージを元のコントローラと交換し、クライアントデータベースのエントリは新しいコントローラに移動されます。新しいセキュリティコンテキストおよびアソシエーションは必要に応じて確立され、クライアントのデータベースエントリは新しいアクセスポイントのためにアップデートされます。このプロセスはユーザには見えません。

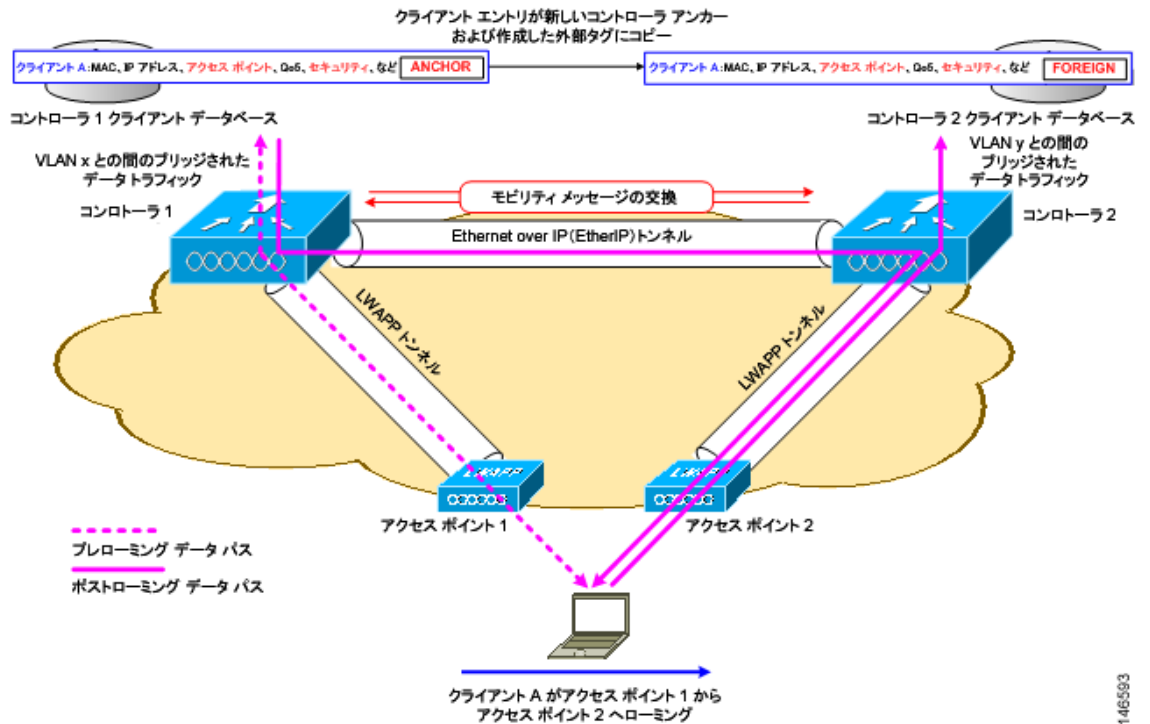


(注)

802.1x/Wi-Fi Protected Access (WPA) セキュリティで設定されたすべてのクライアントは、IEEE 標準に準拠するために完全認証を実行します。

図 8-3 は、コントローラの無線 LAN インターフェイスが別の IP サブネット上にある時に起こるサブネット間ローミングを示しています。

図 8-3 サブネット間ローミング



サブネット間ローミングは、コントローラがクライアントのローミング方法に関するモビリティメッセージを交換する点で、コントローラ間ローミングと似ています。ただし、クライアントのデータベース エントリを新しいコントローラに移動するのではなく、元のコントローラが、それ自体のクライアント データベース内に「Anchor」 エントリでクライアントにマークを付けます。このデータベース エントリは新しいコントローラのクライアント データベースにコピーされ、新しいコントローラ内で「Foreign」 エントリでマークが付けられます。ローミングは無線クライアントには見えません。また、クライアントはその元の IP アドレスを保持します。

サブネット間ローミングの後には、データは無線クライアントとの間で非対称のトラフィック パスで転送されます。クライアントからネットワークへのトラフィックは、外部コントローラによってネットワークへ直接転送されます。クライアントへのトラフィックはアンカー コントローラに達し、ここでトラフィックは EtherIP トンネルの外部コントローラへ転送されます。外部コントローラは、そのデータをクライアントへ転送します。無線クライアントが新しい外部コントローラへローミングする場合は、クライアントのデータベース エントリは元の外部コントローラから新しい外部コントローラへ移動されますが、元のアンカー コントローラは常に保持されます。クライアントは元のコントローラに返されると、再びローカルになります。

サブネット間ローミングでは、アンカー コントローラと外部 コントローラの両方の WLAN に同一のネットワーク アクセス権限を設定し、ソーススペースのルーティングやソーススペースのファイアウォールを所定の位置に設定しないでおく必要があります。そうしないと、ハンドオフ後にクライアントにネットワーク接続の問題が発生する場合があります。

  
(注)

現時点では、サブネット間ローミングの際はマルチキャスト トラフィックは通過できません。この点を考慮して、サブネット間ネットワークの設計には Push-to-Talk を使用する際にマルチキャスト トラフィックを送信する必要のある Spectralink の電話を組み込まないようにします。



(注) コントローラ間ローミングもサブネット間ローミングも、コントローラを同一のモビリティグループ内に設置する必要があります。モビリティグループの説明と設定の手順については、次の 2 項を参照してください。

## モビリティグループの概要

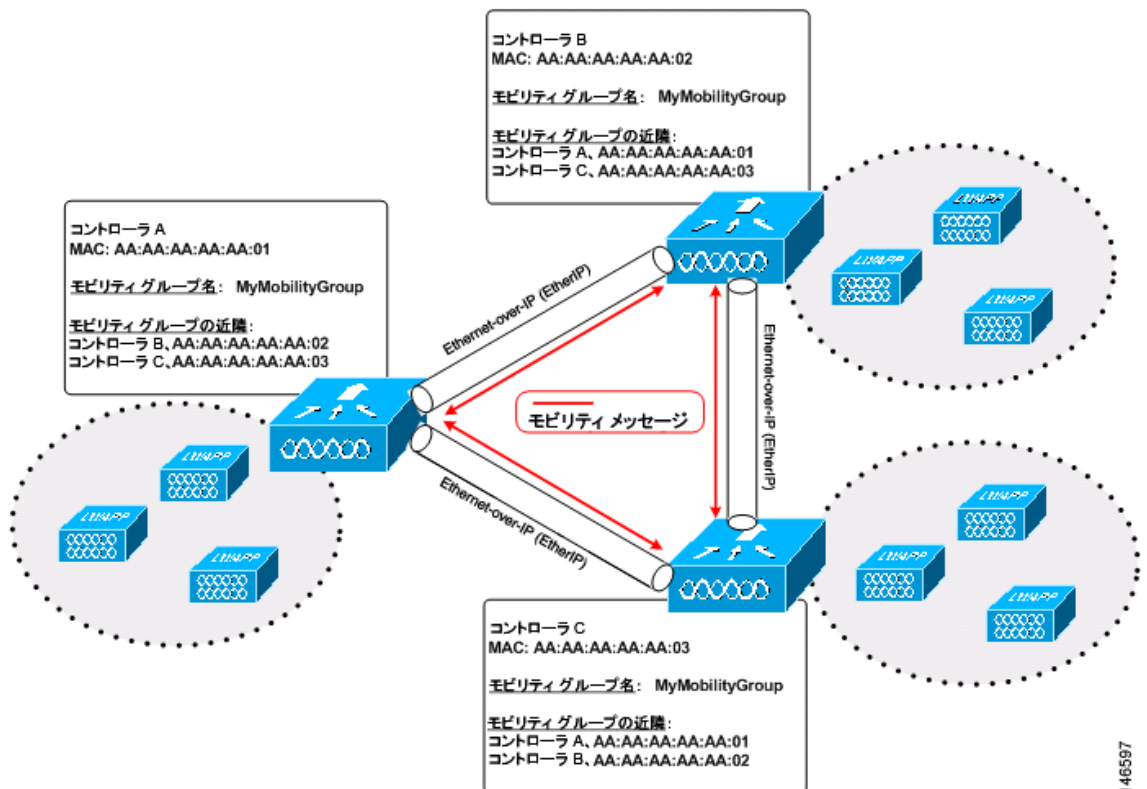
コントローラのセットをモビリティグループとして設定すると、コントローラのグループ内でクライアントのローミングをスムーズに実行できるようになります。モビリティグループを作成すると、ネットワーク内で複数のコントローラを有効化して、コントローラ間またはサブネット間のローミングが発生した際に、動的に情報を共有してデータトラフィックを転送できます。コントローラは、クライアントデバイスのコンテキストと状態およびコントローラのロード情報を共有できます。この情報を使用して、ネットワークはコントローラ間の無線 LAN ローミングとコントローラの冗長性をサポートできます。



(注) クライアントでは、モビリティグループ間のローミングは行いません。

図 8-4 はモビリティグループの例を示しています。

図 8-4 シングルモビリティグループ



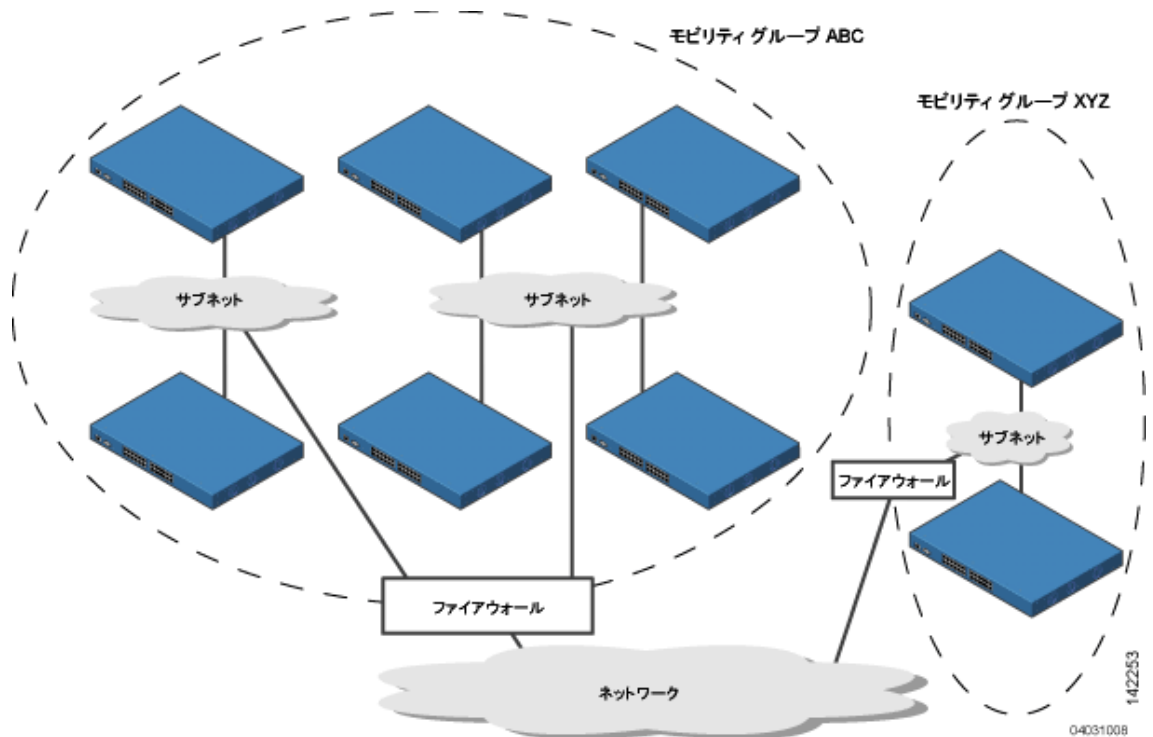
上記のとおり、各コントローラはモビリティグループのほかのメンバのリストを使用して設定されます。新しいクライアントがコントローラに接続されると、コントローラはユニキャストメッセージをそのモビリティグループの全コントローラに送信します。クライアントが以前に接続されていたコントローラは、クライアントのステータスを送信します。コントローラ間のすべてのモビリティ交換トラフィックが LWAPP トンネルで実行されます。

例：

- 4404-100 コントローラは、最大 100 個のアクセスポイントをサポートします。したがって、24 個の 4404-100 コントローラで構成されているモビリティグループは、最大 2400 個のアクセスポイント ( $24 * 100 = 2400$  アクセスポイント) をサポートします。
- 4402-25 コントローラは最大 25 個のアクセスポイントをサポートし、4402-50 コントローラは最大 50 個のアクセスポイントをサポートします。したがって、12 個の 4402-25 コントローラと 12 個の 4402-50 コントローラで構成されたモビリティグループは最大 900 個のアクセスポイント ( $12 * 25 + 12 * 50 = 300 + 600 = 900$  アクセスポイント) をサポートします。

モビリティグループによって、同じ無線ネットワーク内で異なるモビリティグループ名を異なるコントローラに割り当て、1つの企業内の異なるフロア、ビルディング、キャンパス間でのローミングを制限できます。図 8-5 は、2つのグループのコントローラに異なるモビリティグループ名を作成した結果を示しています。

図 8-5 2つのモビリティグループ



ABC モビリティグループのコントローラは、そのアクセスポイントと共有サブネットを使用して相互に認識し、通信します。ABC モビリティグループのコントローラは、異なるモビリティグループの XYZ コントローラを認識せず、通信を行いません。同様に、XYZ モビリティグループのコントローラは、ABC モビリティグループのコントローラを認識せず、通信を行いません。この機能により、ネットワークでのモビリティグループの切り離しが確実に行われます。



(注) クライアントは、異なるモビリティ グループのアクセス ポイントを認識できる場合は、そのアクセス ポイント間のローミングを行う場合があります。ただし、そのセッション情報は異なるモビリティ グループのコントローラ間では伝送されません。

## モビリティ グループにコントローラを追加するタイミング

ネットワーク内の無線クライアントをあるコントローラに接続されたアクセス ポイントから別のコントローラに接続されたアクセス ポイントへローミング可能な場合は、両方のコントローラは同じモビリティ グループ内に存在する必要があります。

## モビリティ グループの設定

この項では、モビリティ グループを設定する方法について説明します。



(注) コントローラを使用してモビリティ グループを設定することもできます。手順については、*Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide* を参照してください。

## 必要条件

コントローラをモビリティ グループに追加する前に、グループに追加するコントローラすべてについて、次の要件が満たされていることを確認する必要があります。

- すべてのコントローラは、同じ LWAPP 転送モード（レイヤ 2 またはレイヤ 3）で設定されている必要があります。



(注) System > General ページで LWAPP 転送モードを確認し、必要に応じて LWAPP 転送モードを変更できます。

- すべてのデバイスの管理インターフェイス間に IP 接続が存在する必要があります。



(注) コントローラを ping すると、IP 接続を確認できます。

- すべてのコントローラは、同じモビリティ グループ名で設定する必要があります。



(注) Cisco WiSM の場合、300 個のアクセス ポイント間をスムーズにルーティングするために、両方のコントローラを同じモビリティ グループ名で設定する必要があります。

- すべてのデバイスを、同じ仮想インターフェイス IP アドレスに設定する必要があります。



(注) モビリティグループ内のすべてのコントローラが同じ仮想インターフェイスを使用していない場合、コントローラ間ローミングが動作しているように見えても、ハンドオフが完了せず、クライアントの接続はしばらくの間切断されます。

- モビリティグループに追加するコントローラごとに、MAC アドレスと IP アドレスを収集しておく必要があります。この情報が必要となるのは、他の全モビリティグループメンバの MAC アドレスと IP アドレスを使用して、すべてのコントローラを設定するためです。

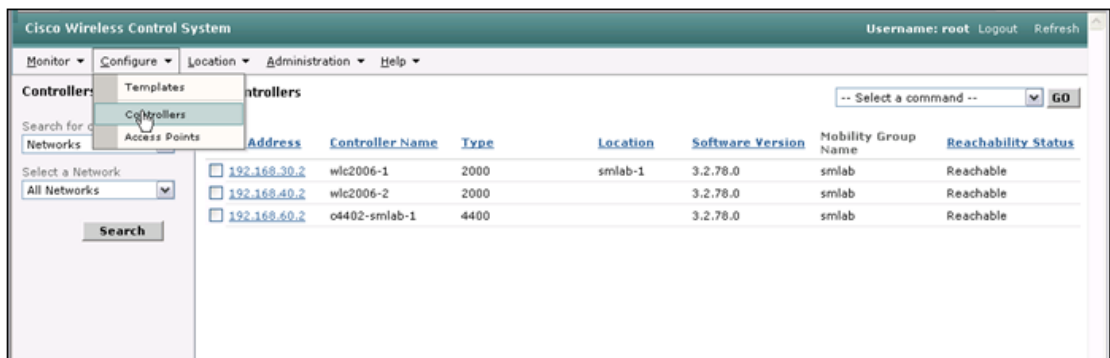


(注) モビリティグループに追加する他のコントローラの MAC アドレスと IP アドレスは、Configure > Controllers ページにあります。

モビリティグループにそれぞれの WLC コントローラを追加して設定する手順は、次のとおりです。

**ステップ 1** Configure > Controllers に移動します (図 8-6 参照)。

図 8-6 Configure > Controllers



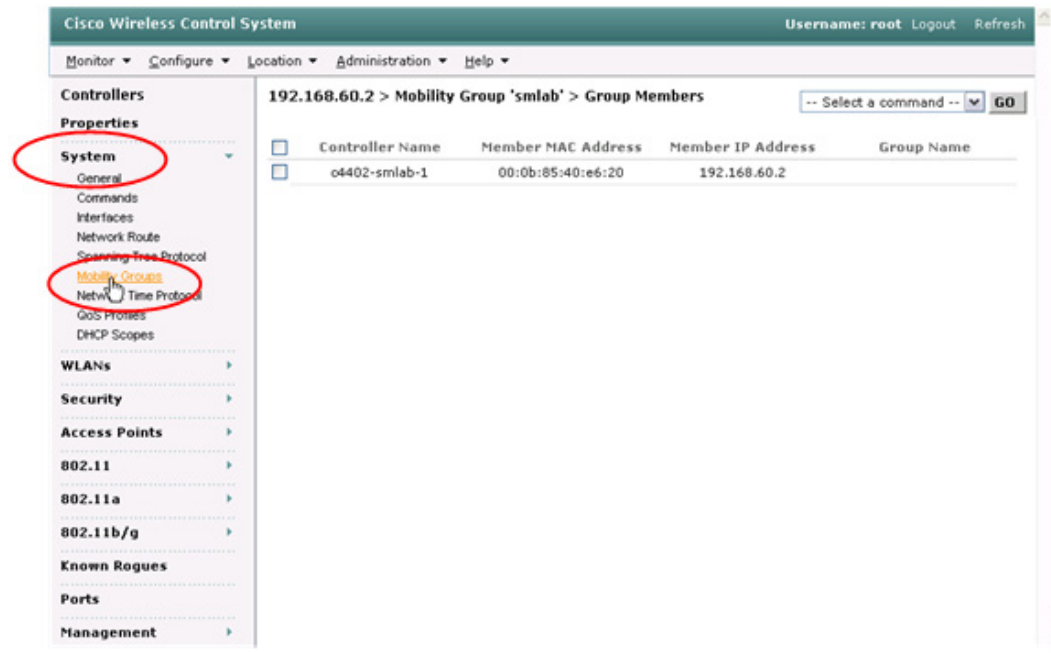
このページでは、手順 1 で追加したすべてのコントローラの一覧が表示されます。モビリティグループ名、および現在モビリティグループのメンバとなっている各コントローラの IP アドレスが一覧表示されます。

**ステップ 2** WLC IP アドレスをクリックして最初のコントローラを選択します。その後、管理しているコントローラのコントローラ テンプレートのインターフェイスにアクセスします。

**ステップ 3** 左側の System > Mobility Groups を選択します。既存のモビリティグループメンバがウィンドウに一覧表示されます (図 8-7 参照)。



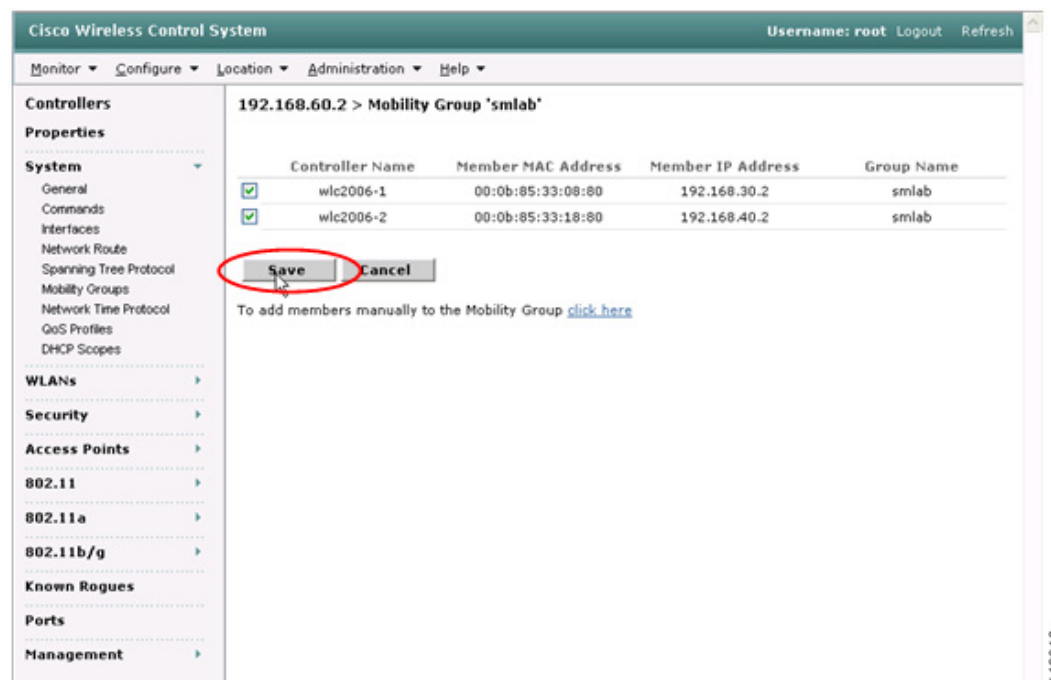
図 8-7 既存のモビリティグループ



**ステップ 4** 右上の Select a Command ドロップダウンメニューから、**Add Group Members** を選択し、**GO** をクリックします。

**ステップ 5** 使用可能なコントローラの一覧が表示されます (図 8-8 参照)。目的の WLC を選択して、**Save** をクリックします。

図 8-8 モビリティグループ設定の保存



**ステップ6** 残りの WLC デバイスに対してステップ2から6を繰り返します。

## モビリティアンカー

モビリティアンカーは、WLAN のアンカー コントローラとして指定されるモビリティグループのサブセットです。この機能は、クライアントのネットワークへのエントリポイントに関係なく、WLAN を1つのサブネットに制限する際に使用されます。これによって、ユーザは企業全体にわたりパブリック WLAN やゲスト WLAN にアクセスできますが、引き続き特定のサブネットに制限されます。また、WLAN は建物の特定のセクション（ロビー、レストランなど）を表すことができるため、ゲスト WLAN で地理的負荷分散を実現できます。

クライアントが、WLAN のモビリティアンカーとして事前設定されているモビリティグループのコントローラに最初にアソシエートすると、クライアントはローカルでそのコントローラにアソシエートし、クライアントのローカルセッションが作成されます。クライアントは、WLAN の事前設定されたアンカー コントローラのみアンカーできます。指定された WLAN の場合、モビリティグループのすべてのコントローラ上で同じセットのアンカー コントローラを設定する必要があります。

クライアントが、WLAN のモビリティアンカーとして設定されていないモビリティグループのコントローラに最初にアソシエートすると、クライアントはローカルでそのコントローラにアソシエートし、ローカルセッションがクライアントのために作成され、コントローラは同じモビリティグループの別のコントローラへ通知されます。その通知に対する回答がない場合、コントローラは WLAN に設定されたいずれかのアンカー コントローラに接触して、ローカルスイッチ上のクライアントに対する外部セッションを作成します。クライアントからのパケットは EtherIP を使用してモビリティトンネルを介してカプセル化され、アンカー コントローラに送信されます。ここでカプセルを解除されて有線ネットワークへ配信されます。クライアントへのパケットは、アンカー コントローラに受信され、EtherIP を使用してモビリティトンネルを介して外部コントローラへ転送されます。外部コントローラはパケットのカプセルを解除し、クライアントへ転送します。



**(注)** 2000 または 2100 シリーズ コントローラを WLAN のアンカーとして指定することはできません。ただし、2000 または 2100 シリーズ コントローラ上に作成された WLAN に 4100 シリーズ コントローラまたは 4400 シリーズ コントローラをアンカーとして指定できます。



**(注)** L2TP レイヤ3セキュリティポリシーは、モビリティアンカーで設定された WLAN には使用できません。

## モビリティアンカーの設定

WLAN の新しいモビリティアンカーを作成する手順は、次のとおりです。

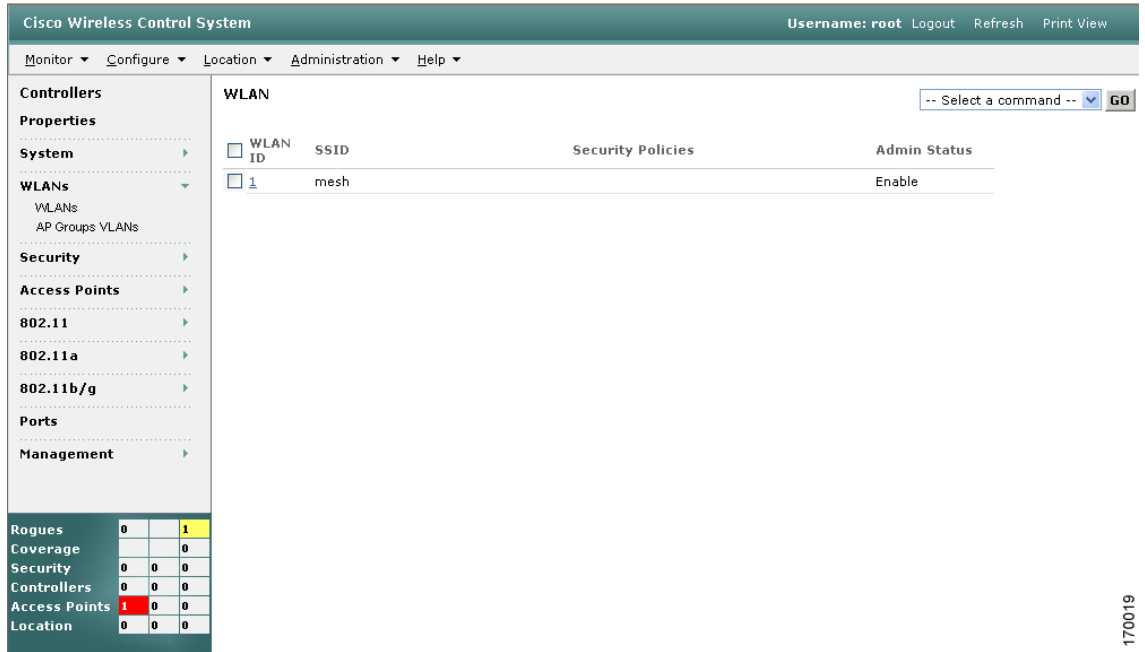
**ステップ1** **Configure > Controllers** の順に選択します。

**ステップ2** IP アドレスをクリックしてコントローラを選択します。

ステップ 3 左側のサイドバーのメニューから、**WLANs > WLANs** の順に選択します。

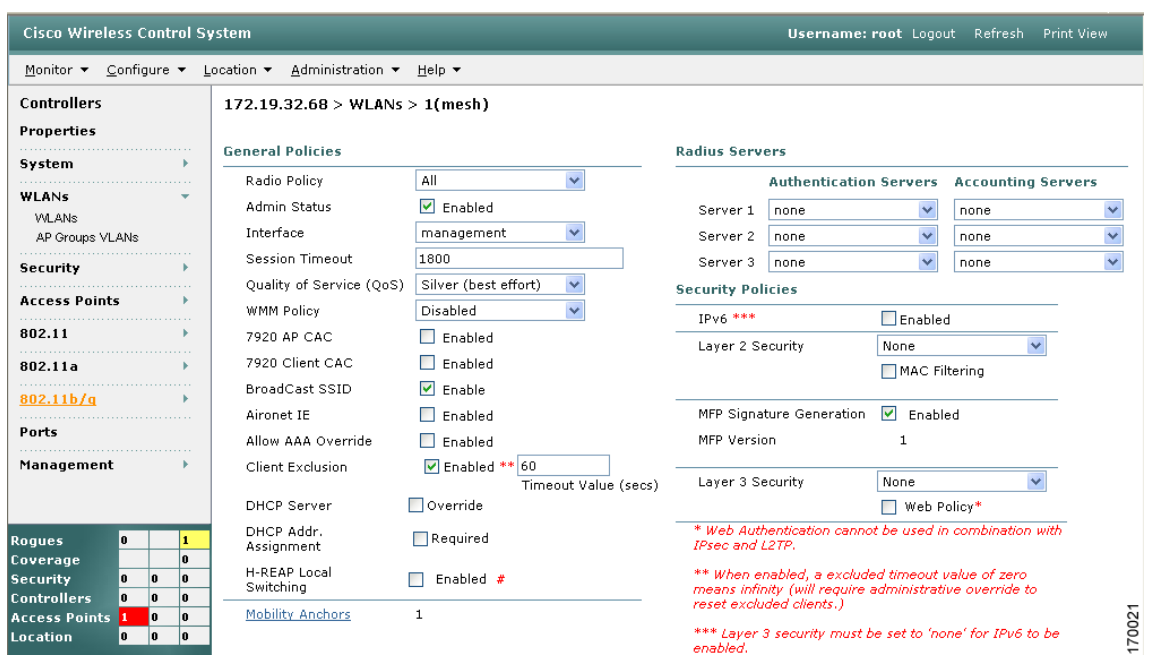
ステップ 4 目的の WLAN ID URL をクリックします (図 8-9 参照)。

図 8-9 WLAN ウィンドウ



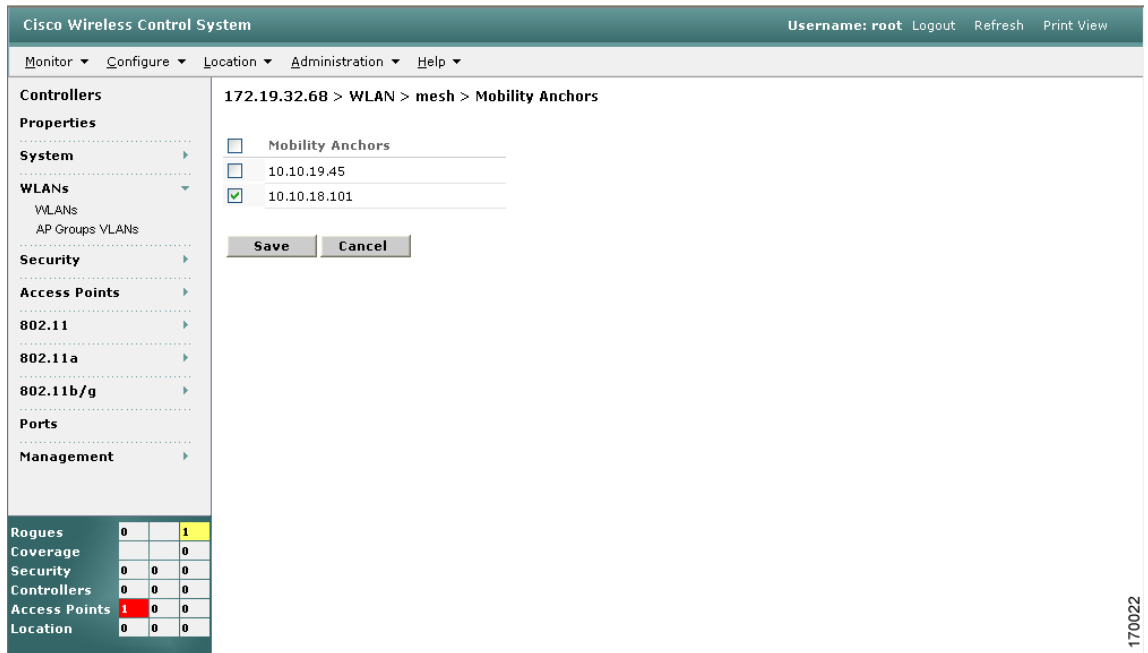
ステップ 5 ページ下部の **Mobility Anchors** リンクをクリックします (図 8-10 参照)。

図 8-10 モビリティアンカーリンク



**ステップ 6** その WLAN の Mobility Anchors ページが表示されます (図 8-11 参照)。

図 8-11 WLAN > Mesh > Mobility Anchors



**ステップ 7** モビリティ アンカーが指定されるようにコントローラの IP アドレス チェックボックスをオンにして、**Save** をクリックします。

**ステップ 8** ステップ 7 とステップ 8 を繰り返し、その他のコントローラをこの WLAN のアンカーとして設定します。

**ステップ 9** モビリティ グループのすべてのコントローラに同じセットのアンカー コントローラを設定します。

## 設定グループの作成

設定グループを作成することで、同じモビリティ グループ名および類似する設定を持つ必要のあるコントローラをグループ化できます。テンプレートをグループに割り当てて、テンプレートをグループ内のすべてのコントローラに適用できます。設定グループを追加、削除、または解除することができ、ソフトウェア、IDS シグニチャ、またはカスタマイズした Web 認証ページを、選択した設定グループのコントローラにダウンロードできます。また、現在の設定を、選択した設定グループのコントローラのために不揮発性（フラッシュ）メモリに保存することもできます。

個々のコントローラまたは選択した設定グループのコントローラへのテンプレートの適用については、[第 9 章「テンプレートの使用」](#)を参照してください。

**Configure > Config Groups** を選択すると、Cisco WCS データベースのすべての設定グループの概要を表示できます。Select a command ドロップダウンメニューから **Add Config Groups** を選択すると、ページに次の列を持つ表が表示されます。

- Check Box : 設定グループを選択するためにオンにします。
- Group Name : 設定グループの名前
- Mobility Group Name : モビリティ グループまたは WPS グループの名前
- Controllers : 設定グループに追加するコントローラの数
- Templates : 設定グループに適用するテンプレートの数
- Last Modified : 設定グループを最後に変更した日付と時刻
- Last Applied : 最後に変更を適用した日付と時刻

## 新しいグループの追加

設定グループを追加する手順は、次のとおりです。

**ステップ 1** **Configure > Config Groups** の順に選択します。

**ステップ 2** Select a Command ドロップダウン リストから、**Add Config Group** を選択し、**GO** をクリックします。Add New Group ウィンドウが表示されます ([図 8-12](#) 参照)。

図 8-12 新しい設定グループの追加

The screenshot displays the 'Add New Group' configuration page in the Cisco Wireless Control System. The page is titled 'Cisco Wireless Control System' and shows the user 'root' logged in. The navigation menu includes 'Monitor', 'Configure', 'Location', 'Administration', and 'Help'. The main content area is divided into two sections: 'Controllers' on the left and 'Add New Group' on the right. The 'Controllers' section has a search function for controllers by network. The 'Add New Group' section has three input fields: 'Group Name', 'Mobility Group Name', and 'Templates'. The 'Templates' section has two radio buttons: 'Select and add later' (selected) and 'Copy templates from a controller'. There are 'Save' and 'Cancel' buttons at the bottom. A bottom table shows system statistics:

Rogues	0	1
Coverage	0	0
Security	0	0
Controllers	0	0
Access Points	1	0
Location	0	0

170020

**ステップ 3** 新しい設定グループ名を入力します。これは全グループで一意である必要があります。

**ステップ 4** 新しいモビリティ グループ名を入力します。グループのコントローラは同じモビリティ グループ名および類似する設定を持つ必要があります。この名前は、グループのすべてのコントローラに読み込まれます。2つの異なる設定グループで同じモビリティ グループを持つことができます。

**ステップ 5** WCS で作成されたその他のテンプレートを、設定グループに割り当てることができます。同じ WLAN テンプレートを、1つ以上の設定グループに割り当てることができます。次の中から選択します。

- **Select and add later** : 後でテンプレートを追加するためにクリックします。
- **Copy templates from a controller** : 別のコントローラからテンプレートをコピーするためにクリックします。現在のコントローラ一覧からコントローラを選択して、それに適用されているテンプレートを新しい設定グループにコピーします。テンプレートのみがコピーされます。
- コントローラを追加する場合は、チェックボックスをオンにして、選択したコントローラを新しい設定グループに追加します。

**ステップ 6** **Save** をクリックします。

## 設定グループの設定

設定グループを設定する手順は、次のとおりです。

**ステップ 1** **Configure > Config Groups** の順に選択し、**Group Name** 列の下のグループ名をクリックします。

**ステップ 2** **General** タブをクリックします。次のような設定グループのオプションが表示されます。

- **Group Name** : 設定グループの名前

- **Mobility Group Name** : グループ内のすべてのコントローラに適用されるモビリティ グループ名。モビリティ グループ名はここで変更することもできます。
- **Last Modified On** : 設定グループを最後に変更した日付と時刻
- **Last Applied On** : 最後に変更を適用した日付と時刻

**ステップ 3 Apply** タブを選択して、指定したモビリティ グループ名をグループのコントローラに配信し、グループの各コントローラでモビリティ グループ メンバを作成する必要があります。

**ステップ 4 Apply** をクリックします。

## 設定グループのコントローラの追加または削除

設定グループのコントローラを追加または削除する手順は、次のとおりです。

**ステップ 1 Configure > Config Groups** の順に選択し、Group Name 列の下のグループ名をクリックします。

**ステップ 2 Controllers** タブをクリックします。表の列にはコントローラの IP アドレス、コントローラが属する設定グループ名、およびコントローラのモビリティ グループ名が表示されます。

**ステップ 3** グループに追加したいコントローラの行をクリックして強調表示させます。

**ステップ 4 >>Add to Group** ボタンをクリックします。



(注) グループからコントローラを削除したい場合は、Group Controllers ボックスのコントローラを強調表示させ、**X Remove from Group** ボタンをクリックします。

**ステップ 5 Apply** タブを選択してから **Apply** ボタンをクリックして、設定グループのコントローラを追加または削除する必要があります。

**ステップ 6 Save Selection** ボタンをクリックします。

## 設定グループのテンプレートの追加または削除

設定グループのテンプレートを追加または削除する手順は、次のとおりです。

**ステップ 1 Configure > Config Groups** の順に選択し、Group Name 列の下のグループ名をクリックします。

**ステップ 2 Templates** タブをクリックします。Remaining Templates テーブルに、使用可能なすべてのテンプレートの項目番号、テンプレート名、およびテンプレートの種類と使用方法が表示されます。

**ステップ 3** グループに追加したいテンプレートの行をクリックして強調表示させます。

**ステップ 4 >>** ボタンをクリックします。



(注) グループからテンプレートを削除したい場合は、Remaining Templates ボックスの v を強調表示させ、X ボタンをクリックします。

**ステップ 5** **Apply** タブを選択してから **Apply** ボタンをクリックして、設定グループのテンプレートを追加または削除する必要があります。

**ステップ 6** **Save Selection** をクリックします。

## 設定グループの適用

モビリティグループ、モビリティメンバ、およびテンプレートを設定グループのすべてのコントローラに適用する手順は、次のとおりです。

**ステップ 1** **Configure > Config Groups** の順に選択し、Group Name 列の下のグループ名をクリックします。

**ステップ 2** **Apply** タブをクリックして、このページにアクセスします。

**ステップ 3** **Apply** をクリックして、モビリティグループ、モビリティメンバ、およびテンプレートのプロビジョニングを、設定グループのすべてのコントローラに対して開始します。適用したら、この画面を離れるか、Cisco WCS からログアウトできます。プロセスは継続され、後でこのページに戻りレポートを表示できます。



(注) プロビジョニングの適用時は、その他の設定グループの機能は実行しないでください。

レポートが生成され、Recent Apply Report ウィンドウが表示されます。どのモビリティグループ、モビリティメンバー、またはテンプレートが各コントローラに適用されたかが表示されます。

## 設定グループの監査

コントローラの設定がグループのテンプレートおよびモビリティグループに従っているかどうかを確認する手順は、次のとおりです。

**ステップ 1** **Configure > Config Groups** の順に選択し、Group Name 列の下のグループ名をクリックします。

**ステップ 2** **Audit** タブをクリックして、このページにアクセスします。

**ステップ 3** **Audit** をクリックして、コントローラの設定がグループのテンプレートおよびモビリティグループに従っているかどうかを確認します。監査中は、この画面を離れるか、Cisco WCS からログアウトできます。プロセスは継続され、後でこのページに戻りレポートを表示できます。





(注) 監査中は、その他の設定グループの機能は実行しないでください。

レポートが生成され、各コントローラの現在の設定が設定グループのテンプレートに準拠します。各コントローラの監査レポートが表示され、必要に応じて各コントローラ設定を修正するオプションが含まれます。

## 設定グループのリポート

設定グループをリポートする手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** **Configure > Config Groups** の順に選択し、Group Name 列の下のグループ名をクリックします。
- ステップ 2** **Reboot** タブをクリックします。
- ステップ 3** 一度に 1 つのコントローラをリポートして、そのコントローラが検出されるまで次のコントローラのリポートを待つ場合は、**Cascade Reboot** チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** **Reboot** をクリックして、設定グループのすべてのコントローラを一度にリポートします。リポート中は、この画面を離れるか、Cisco WCS からログアウトできます。プロセスは継続され、後でこのページに戻りレポートを表示できます。

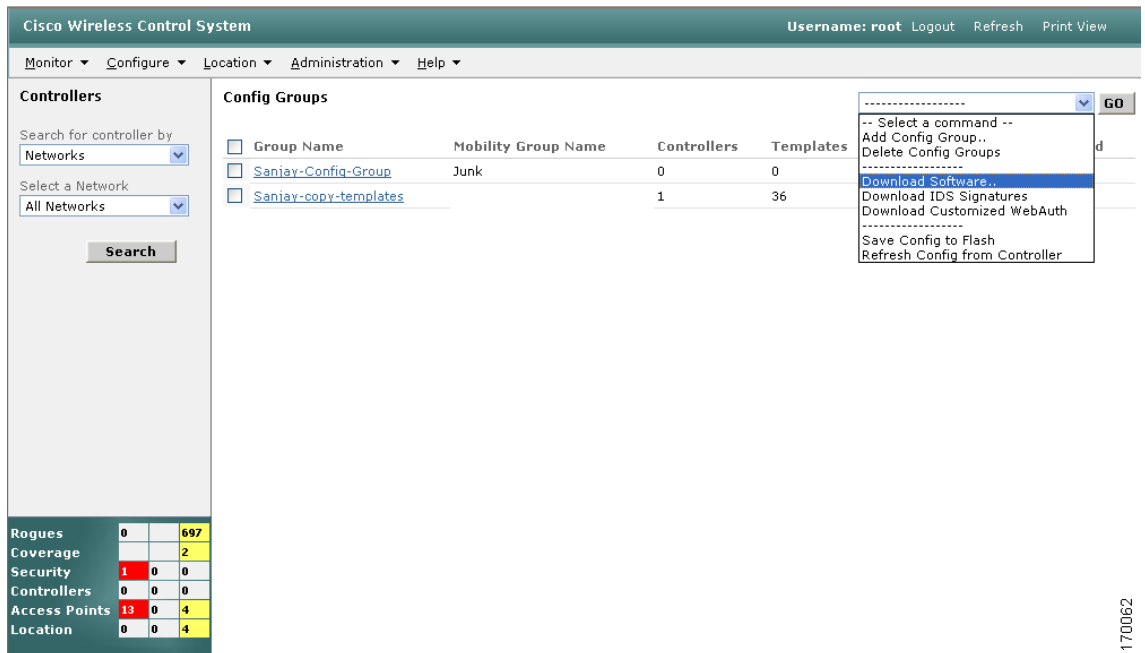
Recent Reboot Report ウィンドウに、各コントローラがリポートされた時間、リポート後のコントローラのスレータスが表示されます。WCS がコントローラをリポートでいない場合は、エラーが表示されます。

## ソフトウェアのダウンロード

設定グループの作成後に、選択したグループのすべてのコントローラにソフトウェアをダウンロードする手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** **Configure > Config Groups** でチェックボックスをオンにして、Config Groups ウィンドウで 1 つ以上の設定グループ名を選択します。
- ステップ 2** Select a command ドロップダウン メニューから **Download Software** を選択し、**GO** をクリックします (図 8-13 参照)。

図 8-13 Download Software オプション



**ステップ 3** Download Software to Controller ウィンドウが表示されます。バンドルを受信するコントローラの IP アドレスとその現在のステータスが表示されます。File is Located On パラメータから **local machine** を選択します。

**ステップ 4** Maximum Retries パラメータに、シグニチャ ファイルのダウンロードを試みる最大時間を入力します。

**ステップ 5** Timeout パラメータに、シグニチャ ファイルをダウンロードする際、コントローラがタイムアウトするまでの最大時間を秒単位で入力します。

**ステップ 6** シグニチャ ファイルは c:\tftp ディレクトリにアップロードされます。そのディレクトリでのローカル ファイル名を指定し、Browse ボタンを使用してそのファイル名に移動します。コントローラはベース ネームとしてこのローカル ファイル名を使用してから、拡張子として **\_custom.sgi** を追加します。

何らかの理由で転送がタイムアウトした場合には、File Is Located On パラメータの TFTP サーバ オプションを選択すると、Server File Name が読み込まれ、再試行されます。

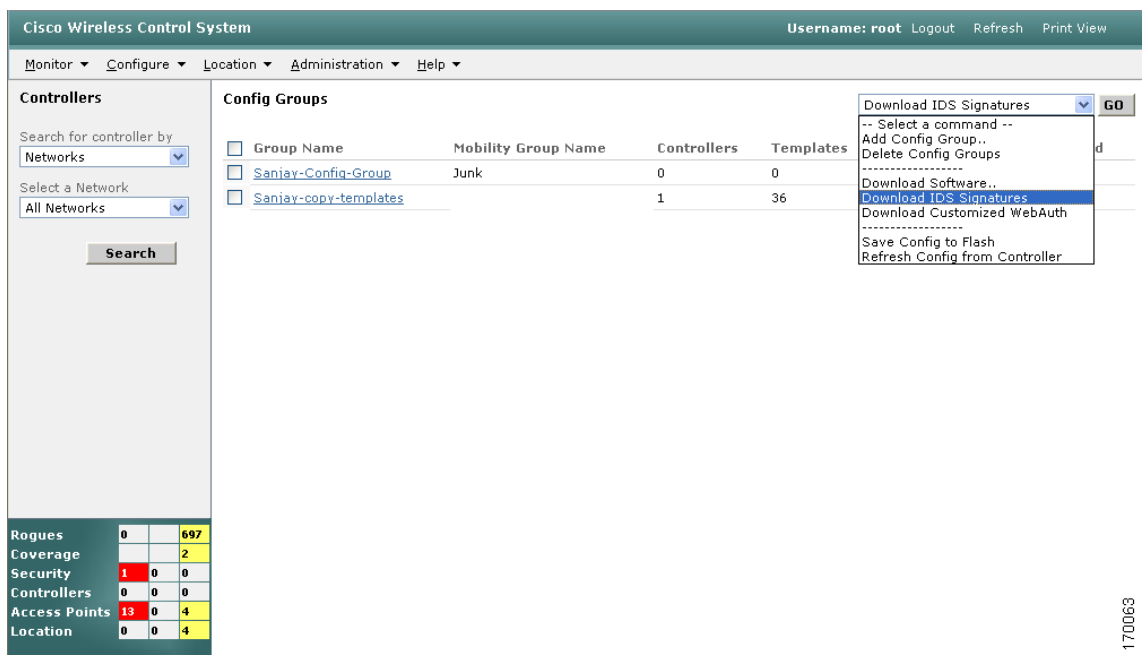
**ステップ 7** OK をクリックします。

## IDS シグニチャのダウンロード

設定グループからローカル TFTP サーバへ Intrusion Detection Systems (IDS; 侵入検知システム) のシグニチャ ファイルをダウンロードする手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** Configure > Config Groups でチェックボックスをオンにして、Config Groups ウィンドウで 1 つ以上の設定グループを選択します。
- ステップ 2** Select a command ドロップダウン メニューから **Download IDS Signature** を選択し、**GO** をクリックします (図 8-14 参照)。

図 8-14 Download IDS Signatures オプション



- ステップ 3** Download IDS Signatures to Controller ウィンドウが表示されます。バンドルを受信するコントローラの IP アドレスとその現在のステータスが表示されます。File is Located On パラメータから **local machine** を選択します。
- ステップ 4** Maximum Retries パラメータに、シグニチャ ファイルのダウンロードを試みる最大時間を入力します。
- ステップ 5** Timeout パラメータに、シグニチャ ファイルをダウンロードする際、コントローラがタイムアウトするまでの最大時間を秒単位で入力します。
- ステップ 6** シグニチャ ファイルは c:\tftp ディレクトリにアップロードされます。そのディレクトリでのローカル ファイル名を指定し、Browse ボタンを使用してそのファイル名に移動します。コントローラはベース ネームとしてこのローカル ファイル名を使用してから、拡張子として \_custom.sgi を追加します。

何らかの理由で転送がタイムアウトした場合には、File Is Located On パラメータの TFTP サーバ オプションを選択すると、Server File Name が読み込まれ、再試行されます。

ステップ 7 OK をクリックします。

## カスタマイズされた WebAuth のダウンロード

カスタマイズされた Web 認証をダウンロードする手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** Configure > Config Groups でチェックボックスをオンにして、Config Groups ウィンドウで 1 つ以上の設定グループを選択します。
- ステップ 2** Select a command ドロップダウン メニューから **Download Customized WebAuth** を選択し、GO をクリックします (図 8-15 参照)。

図 8-15 Download Customized Web Auth

The screenshot shows the Cisco Wireless Control System interface. The main area displays a table of Config Groups. A dropdown menu is open over the table, showing the 'Download Customized WebAuth' option selected. The 'GO' button is visible to the right of the dropdown.

Group Name	Mobility Group Name	Controllers	Templates
<input type="checkbox"/> Saniay-Config-Group	Junk	0	0
<input type="checkbox"/> Saniay-copy-templates		1	36

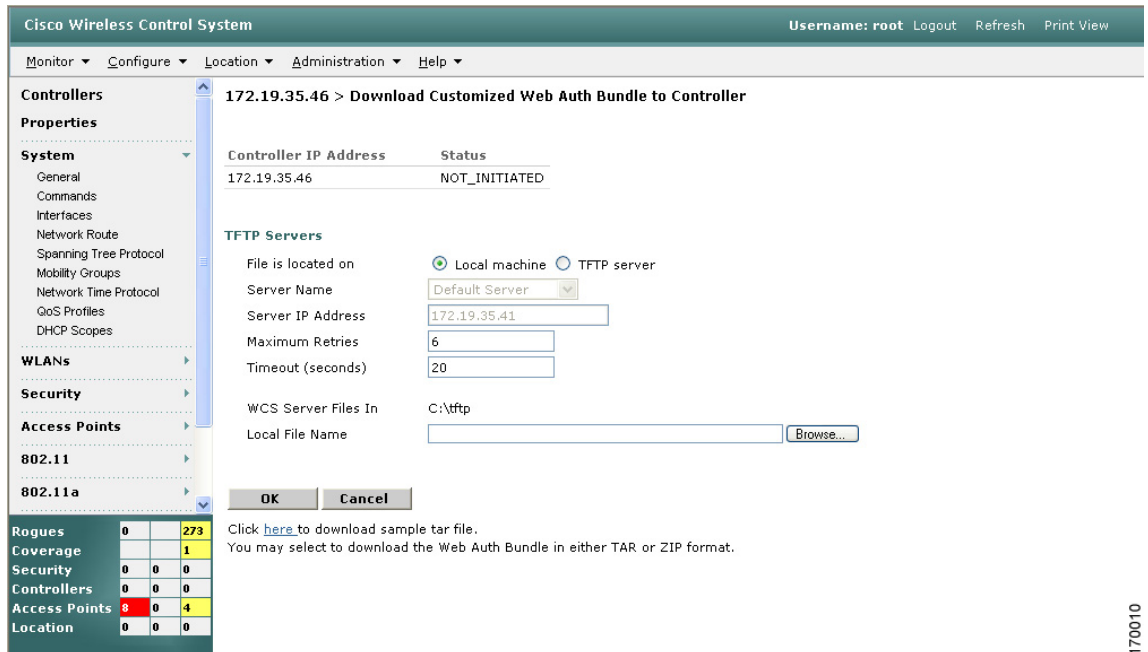
Bottom left summary table:

Rogues	0	697
Coverage	1	2
Security	1	0
Controllers	0	0
Access Points	13	4
Location	0	4

170064

- ステップ 3** Download Customized Web Auth Bundle to Controller ウィンドウが表示されます。バンドルを受信するコントローラの IP アドレスとその現在のステータスが表示されます (図 8-16 参照)。

図 8-16 Download Customized Web Auth Bundle to Controller



- ステップ 4** File is Located On パラメータから **local machine** を選択します。
- ステップ 5** Maximum Retries フィールドに、ファイルのダウンロードを試みる時間を入力します。
- ステップ 6** Timeout フィールドに、ファイルをダウンロードする際、コントローラがタイムアウトするまでの時間を秒単位で入力します。
- ステップ 7** WCS Server Files In パラメータには WCS サーバ ファイルを配置する場所を指定します。そのディレクトリでのローカル ファイル名を指定し、Browse ボタンを使用してそのファイル名に移動します。
- ステップ 8** OK をクリックします。

何らかの理由で転送がタイムアウトした場合には、File Is Located On パラメータの TFTP サーバ オプションを選択すると、Server File Name が読み込まれ、再試行されます。

